

審議会等の会議結果報告

1. 会 議 名	第 31 回 松阪市政推進会議
2. 開 催 日 時	令和 5 年 12 月 22 日 (金) 午後 3 時 00 分～午後 5 時 00 分
3. 開 催 場 所	松阪市役所 議会棟 第 3・4 委員会室
4. 出席者氏名	出席委員：岡山慶子委員、小野崎耕平委員、門暉代司委員、酒井由美委員、高島信彦委員、西川明樹委員、松浦信男委員、三井高輝委員、村林守委員、山端裕子委員、米山哲司委員、渡邊幸香委員 欠席委員：梅村光久委員、西村訓弘委員、平岡直人委員 事 務 局：竹上市長、近田副市長、永作副市長、藤木企画振興部長、川上企画振興部経営企画課長、小川企画振興部経営企画課政策経営担当主幹、西山企画振興部経営企画課政策経営係長
5. 公開及び非公開	公開
6. 傍 聴 者 数	1 人 (内、報道関係 1 社)
7. 担 当	松阪市企画振興部 経営企画課 TEL 0598-53-4319 FAX 0598-22-1377 e-mail kei.div@city.matsusaka.mie.jp

・議事録は別紙のとおり

第 31 回 松阪市政推進会議 議事録

1. 日 時 令和 5 年 12 月 22 日（金） 午後 3 時 00 分～午後 5 時 00 分
2. 場 所 松阪市役所 議会棟 第 3・4 委員会室
3. 出席者 岡山慶子委員、小野崎耕平委員(Web 参加)、門暉代司委員、酒井由美委員、高島信彦委員、西川明樹委員、松浦信男委員、三井高輝委員、村林守委員、山端裕子委員、米山哲司委員、渡邊幸香委員

※欠席者 梅村光久委員、西村訓弘委員、平岡直人委員

〔事務局〕竹上市長、近田副市長、永作副市長、藤木企画振興部長、川上企画振興部経営企画課長、小川企画振興部経営企画課政策経営担当主幹、西山企画振興部経営企画課政策経営係長

資料

- ・資料 1 令和 6 年度にやるべきこと・のばすこと

1 市長あいさつ

改めまして皆さま、こんにちは。令和 5 年を振り返ると、松阪市はスポーツの 1 年だったように思います。2 回目のみえ松阪マラソンも無事に終わり、12 月に開催されるマラソン大会で 2 番目の高評価となっております。特に、沿道からのたくさんの応援や松阪肉や鳥焼肉などの給食、プロジェクトマップの 3 つが、ランナーから評価が高かったのではないかと思います。

今年は、スポーツはまちづくりに向いていると実感した 1 年でした。5 年に 1 回更新するスポーツ計画を今年、策定しましたが、そのアンケート調査でスポーツをやる人の割合が前回よりも 4 ポイント増えていました。みえ松阪マラソンの宣伝効果以外にも、この春に入所したメダリストの職員による小中学校への出前授業なども理由なのかなと思います。

以前、委員から聞いたお話ですが、マラソンなどのスポーツイベントは、本来は自然と健康になることが目的で、何もしていない人がスポーツに関わろうとする意識が芽生えることで自然と健康になる、これが非常に効果としては素晴らしいということです。そういう意味では今年はスポーツに関して私なりに気づきがあり、まちづくりとしても効果があったと感じた 1 年でした。

今日は「令和 6 年にやるべきこと・のばすこと」がテーマです。今年 5 月にはコロナが 5 類になり、祇園まつり、氏郷まつり、牛まつり、みえ松阪マラソンなど、いろんな地域行事が復活した 1 年でした。日本国中で人を呼び込む施策を行う中、どういったことをすれば交流人口を増やすことが出来るか、まちの発展に寄与出来るかなど、いろんなご意見をいただければと思います。

ちなみに今日のニュースで竹筋コンクリートが実用化出来るという話がありました。世の中のためになることは、どんどん技術が進歩していくのだと改めて感じました。

それでは、いろんなご意見、アイデアをいただけたらと思います。よろしくお願いします。

※松阪市政推進会議規則第 5 条により、会長が会議の進行を行う。

○ 会議の公開・非公開の決定

会長)

皆さん、改めましてこんにちは。お忙しい中、お集まりいただきましてありがとうございます。

この会議ですが、前は8月でしたので、選挙後、初めてになります。3期目の竹上市政が始まり、今日の議題が「令和6年度にやるべきこと・のぼすこと」ということで、事実上のスタートになる大事な年になると思います。我々としてもきっちりと支えていきたいなと思いますので、様々な角度から皆さんの忌憚のないご意見をいただき、市長さんにご参考いただくということで、今日もよろしくお願いいたします。

今回の議題が「令和6年分やるべきこと・のぼすこと」ということで、本日の会議も公開で進めていきたいと思いますが、いかがでしょうか。

(異議なし)

会長)

ありがとうございます。では本日も公開で開催したいと思います。

2 協議事項

1) 「令和6年度にやるべきこと・のぼすこと」

市長)

この資料の目指す方向というのは、実はこれは私の公約で、まず子育てに関してですが、今、高校生の医療費は、所得制限内でなおかつ一定の基準額以内の世帯は全額助成、それ以外の世帯は半額助成、所得制限を超える世帯については全額負担をしていただいておりますが、それを所得に関係なく全て無料化にするということです。

次に放課後児童クラブについてですが、今年4月の調査の結果等から、夏休みだけの学童作ろうという流れになりました。既に、一部始めておりますが、来年は大々的にやっていきたいと考えております。

給食に関しまして、多子世帯、3人以上のお子様のご家庭で、1番上の子が18歳を超えるまでは、3人目以降は所得に関係なく全て無料化にするということです。

次に子ども家庭センターについては、赤ちゃん訪問から始まり、1歳半健診、3歳半健診など、就学までをここで一本化しようというセンター構想です。

「守る」に関しまして、福祉まるごと相談室を市内で6ヶ所開設しました。令和7年度までに市内に13ヶ所、基本的には中学校区に1つ、大きな中学校区は2ヶ所、2年かけてやっていこうと考えております。

成年後見については、超高齢社会で認知症の方も増えておりますので成年後見センターをさらに充実をさせていくということです。

医療に関しては、市民病院の機能転換の話があり、転換をすることで地域包括ケアを実現しようという話です。

「伸ばす」は、市民懇談会や市民アンケートなど、サイレントマジョリティーと言われる沈黙の大多数の皆さんの声を拾い上げて、しっかりと対応をした上で、事業展開をしていきたいと思っております。

市政の情報発信は、行政が苦手とする分野ですが、さらに積極的にやっていきます。

まちづくりに関しまして、今、市民センターは行政職員でやっていますが、これからのまちづくりは地域の皆様方の力やお知恵を借りないと、市役所だけやっていくことは難しく、それをコミュニティセンター化、いわゆる指定管理にして地域にお任せしていこうという話です。今年度から受けていただいています徳和地区の委員に、今日は来ていただいております。1年経っておりませんが、今の状況等、またお話しいただければなと思います。

駅西の開発については、基本的には民間資本を導入して、複合ビルの的なものを作ることが出来ればと考えています。都市計画法では、市街化すべき所と、やめておこうという所の二つに線引きがされており、このやめておこうという所が市街化調整区域です。町の周辺地域は市街化調整区域になっていますが、地区計画制度等を利用して、育った人達が戻って来た時に、家が建てられるようにしていこう、ということです。

行政運営については、借金を増やさない、DXを活用した新サービスの向上を目指すということですが、DXは今では普通の話で、どんどん活用しながら進めていきたいと考えております。チャットGPTを今年、お試し期間を設けて使っておりましたが、最終結果としまして、市職員の半数から大いにこれは活用すべきとの意見が出ました。簡易な文書、案内は全てAIが何百字以内と指定すれば作ってくれますが、学習機能をどこまで制御するか、個人情報の取り扱いなどが問題になっています。和歌山県では、いち早くビッグデータの活用に取り組んでいましたが、規制が厳しく法整備を含めルールが作られていないので、この前、「やめませ宣言」をしていました。まだまだ超えなくてはいけないハードルは高いですが、これらを活用しながら業務を効率化して、対面でないと出来ない福祉部門に省力化した力を振り分けることがこれからは必要だと考えています。

雇用に関しましては、新しい工業団地を作っております、小さいながらもこういったこともやっていきたいと考えています。

それから本社移転、これが大きなテーマの1つで、本社には管理部門や開発部門が必ずあります。ここから出ていった優秀な若者達が、帰って来る場所になる可能性が非常に高いので、企業誘致はもちろんです、そういったところも力を注いでいきたいと思えます。

最後は、先程も少しお話をしましたが、スポーツの力を健康なまちづくりに活かしていきます。

それからクラギ文化ホール、文化施設を整備します。松阪市は、文化にかけているお金はかなり多く、クラギ文化ホールの改修だけで18億です。松阪市が寄贈を受けて管理をしている長谷川治郎兵衛家、旧長谷川家を大規模改修するとなると、重要文化財で保存修理管理計画に基づいて文化庁の許可を得ながら行う必要があるので、10億以上かかるそうです。文化施設を管理・運営をしていくための必要経費はどうしてもかかってしまいますが、そういったものにも力を注いでいきたいと考えております。

1つ自慢をさせていただきますと、子育てしやすい街ランキングで松阪市は堂々の全国20位になりました。県内1位、東海4県でも2位で、かなり躍進をしております。これからも頑張っていきたいと思えます。以上です。

委員)

4月1日から徳和地区がコミュニティセンターということで地域の人間で運用をしております。まだ10ヶ月足らずですが、毎日、どういう方からどんな相談を受けているのか4月1日からつけておまして、1日少なくとも4・5件お電話いただき、職員には本当に頑張ってもらっています。

今まで徳和地区だけにこだわっていましたが、松阪・津・伊勢からも話を聞きに来られたり、活動が広がったように思います。

いろんな地域があり、まずは徳和を見に来て下さいということで、43の住民協の方にもお話をさせていただいたのですが、9の住民協しか来ていただけなかったのが、こちらから公民館などへ出向きました。お話を聞かせていただくと、小学校の合併の話があり、その1つ先のコミュニティセンター化は難しいといった意見もありましたが、地域のことを考えて、コミュニティセンター化に向けて進めていっていただけるといいかなと思います。

生涯学習の場については、とても大切なことですので、講座や学習の場など今までどおり使っていただいております。また稼働率も上がり、私達もいろんなセンターに出向き、講座へ参加したり、それぞれの良いところを見聞きしながら進めていきたいと考えております。大変なこともありますが、良いこともあるということをもっと聞いていただけると嬉しいかなと思います。地域の方の喜ぶ顔や90%以上の方から「職員さんが頑張っている」というアンケート結果もいただいておりますので、ちょっとでも前向きな気持ちになっていただければと思います。

委員)

上手く活発にやっていると噂でもお聞きしており、素晴らしいなと思います。どういうスキルがあれば上手くまわせるのか教えていただければと思います。

委員)

そうですね。まずコミュニティセンターを受けるに当たり、働く方にもどのような仕事を分かかって欲しかったので、仕事をしてもらいながらちょっとずつ地域の方にも覚えてもらいました。また笑顔を絶やさないと、そして来てもらった方には丁寧に対応すること、顔を見て目を見てまずは挨拶からというのは言っております。他にも、入って来る方が分かるように駐車場や入口に向けた机を作り、向こうから声かけてもらうのではなく、必ずこちらから声をかけております。来て良かったな、もう一度相談したいと思っていただけるように職員は一生懸命お話を聞かせてもらっております。

会長)

職員さんには、どんな方が何人いらっしゃるのですか。

委員)

私と2人が常勤で、3人が非常勤です。子育ての最中の30代・40代の子、あとは80代の方が元

気になりたいからということで、お掃除に週4回来ていただいたり、ボランティアと有償ボランティアの間ぐらいの方が30人、普段の活動は、小学生から大学生までのボランティアが34人、一般の住民の方には50から60の方に登録いただき活動しております。

会長)

コミュニティセンターになって、いろんな方が入って協力体制が出来ているように思います。

委員)

私もいろんな公民館行きますと徳和のセンターの良い噂を聞いております。他の会議に行きますと、コミュニティセンター化についても申請の準備等の話を伺いますが、1つお聞きしたかったのは、指定管理は基本1年更新ですか。

市長)

3年です。

委員)

あるところで受けないかという話の時に、1年更新とお聞きしました。

委員)

1年間だけモデル的に練習をして、令和5年・6年・7年の3年契約をしました。

市長)

1年間練習期間としてやってもらっていることが多いです。これなら出来るということであれば正式契約になります。

委員)

1年契約で、指定管理の書類が大変とお聞きしました。

委員)

よく言われますが、反対に楽になっているように思います。

委員)

地域の方は書類づくりに慣れていないので、躊躇しているのではないかと思います。

市長)

市の指定管理の審査委員会にかける必要があり、市民センターの指定管理をやっていただくこと

ろは住民自治協議会しかありません。一般的な指定管理は提案型であり、プロポーザルはかなり書類の量が多く、少しでも地域の方に受けていただくために、初めのハードルを低くしようと考えています。通常の指定管理の審査会とは異なるので、改善の余地はあるのかなと思います。

委員)

1つ質問ですが、今のお話を聞いて住民自治が進むのはとても良いことだと思いますが、コストも下がっているのか教えてください。

市長)

コスト面で言いますと、だいたい500万から1000万ぐらいは下がっていると思います。市役所の正規職員の平均年収をベースに言いますと、たしか800万から1000万の間ぐらいで、そこが1人抜けるので、その違いは出てきます。収入の面で言いますと、今までの市民センターは土曜日に公民館、日曜日にイベントがある時以外は、基本、土日は閉館でしたが、徳和地区コミュニティセンターは基本、土日空いていて、貸館が増えているので、その分収入も増えております。市民センターは地域の拠点施設として作っているのです、投資に見合った利用をしていただく割合はかなり上がり、コスト面でも良い方に働いていると思います。

委員)

今まで月800人ぐらいだったのが、今では1,200人ぐらいの方に来ていただいております。

委員)

徳和さんの素晴らしいモデルが早く松阪市の各地に広がって欲しいと思います。

「守る」にある福祉まると相談室を市内全域に開設し、6か所増えるとのことですが、これはコミュニティセンターに併設ではなく、別に開設されるということでしょうか。

市長)

直近では3つの地区をまとめて松尾、大河内、宇気郷福祉まると相談室を作りました。松尾市民センターは来年、コミュニティセンター化をしますので共存するような形になります。市民センターの中にあつた方が、地域の人にも相談しやすいので、そこを利用するのが良いのかなと思います。

委員)

まると相談室は敷居が高くない方が良くと思います。自殺対策の策定委員に入ったのですが、松阪市の自死の現状が思っていたよりも高く、152人中、男性が約7割で中年の働き盛りの男性の自死が非常に増えているとのこと、相談しにくいという事もあるのかと思います。市民の寄りやすいところに、コミュニティセンターと福祉まると相談室を併設するという形で常に情報が聞ける体制が望ましいと思います。

目指す方向性「育てる」のこども家庭センターの創設ですが、こどもを育てる親の健康、精神や心身ともにサポートすることも必要だと思います。健康福祉部の会議に出まして、女性は更年期など心身ともに不安定な時期を迎えながら、子育てをしている女性も多いと聞いています。こども家庭センターのところに女性の健康課題を解決する、そういったサポートを増やしていただきたいと思います。また男性のパパについても、そういった相談窓口があってもいいかなと思いました。

次に「のばす」の市政の情報の発信というところで、去る11月18日に子育てプロジェクトサイン主催で、原田積善会様の助成を受けまして、松阪市内の子育てに関する市民活動団体が20組ぐらい集まり、実際に健康センターはるるでPRフェスをしました。12団体が活動をPRしましたが、知らない団体が多く、そのフェスを開催したからこそ発見出来たこともありました。これはご提案ですが、例えば子育て支援とか行政イベントなどカテゴリー別で分けられていて、選び取りやすいステーションがあれば、助かるなということ、学校の参観日に子育て支援情報など職員の方が出張で来られてPRするなど、必ず届けるということをしっかり考える必要があると思います。

商店街の賑わいに関しては、空き家の店舗が多いということですが、駅前の商店街で各空き店舗の方とお見合いさせて、商店街でマルシェを行うなど、1つのイベントとしてみてはどうかと思います。

あともう1つ、スポーツがまちづくりに向くということですが、例えば企業対抗のスポーツ大会など市内の企業を知る機会が必要なのかなと思います。体を動かしたり心が動くようなイベントを市でやってみてはいかがでしょうか。ご検討ください。

市長)

イベントに関しましては、AIを使い、ステーションを作りましたが、少し分かりにくいので、もう少し分かりやすくします。

委員)

こどもが生まれた後の施策が多く、実際に子育て人口の流入の面はどうなのかなと思います。以前、新聞に書いてありましたが、若者で、こどもを生みたいと思う世帯はあるが、現実的には経済的な問題で生むことに対するヘジテーションから生まない世帯が多いので、そこを上手く後押しすると、さらに子育てに対する部分が注目されたまちになるのかなと思います。実際に誕生人口が増えていないのであれば、こどもが生まれやすい施策も検討されてはどうかと思います。

委員もおっしゃってましたが、駅を降りた瞬間の活性化はとても重要だと思います。

また若者の中にはおにぎり屋さんをやってみたいが家賃が高く出来ない方もいるので、例えば、無責任な発言にはなってしまいますが、市で一括で地域を借りて、通常の家賃よりも安く、イベントやテナントに使いたい若者に貸すなど、人が見えるような形に出来ると面白いのではないかと思います。

そしてもう1つ、市外から来た時、郊外のお店に行くことが容易ではないので、ライドシェアなどが出来ると面白いと思います。

市長)

こどもの数は残念ながら減っております。令和2年からコロナが始まりまして令和3年の婚姻数が年間800組ぐらいあったのが、令和3年は600組を切りました。令和4年の出生数も約1000人で、多少は戻ってはいますが、コロナ前は松阪市で年間1300人ぐらい生まれていたもので、そこまでの回復はまだないのかなと思います。委員からもご指摘ありましたが、生まれた後の施策は多いですが、生まれる前、例えば婚活などは生き方の選択であり、センシティブな部分になります。ジェンダーフリーなど性差の話は公の場では非常に取組が難しく、民間と公民連携を考えていく必要があると思います。

委員)

生まれることに対するサポートは難しいですか。

市長)

妊娠8か月の訪問などはやり始めております。

委員)

立命館大学のベンチャー企業が、こどもが生まれた直後のお父さん、お母さんが相談出来るようにアプリを開発し、助産師さんなど賛同する人達を、関西に限らず全国で繋いでいます。ここに来るとちょっとしたことでも相談出来るまち、本当に生みやすいまちというのが広がっていくと、外から人が来るのかなと思いました。

委員)

8年間の実績の2ページに健康センターはるで「松阪版ネウボラ」、妊娠してからのサポートがありますが、以前、大学で学長をされていた方が、もう1つ前からのサポートが必要とおっしゃっていました。ティーンエイジャーの妊娠や出産の理解を深めていく、場合によっては学校と協力していく。さらには、おばあちゃん世代にも子育てについて支援をしていただき、生涯に渡って女性をサポートしていく連携が必要かと思います。

市長)

委員がおっしゃっていた商店街についてですが、駅の近くに、ほとんど使われていない駐輪場があり、そこをチャレンジショップとしました。観光協会で取り仕切りを行っていただき、キッチンカーを入れたり、箱物が1つあるので、そこへ出店していただくような形にしたいと考えています。

また松阪市の道はあまり広くはありませんが、歩行者天国に出来ればと考えています。商店街にも乗っかっていただきたいですが難しいところもあり、どこまで出来るかは分かりませんが、補助金や税条例を変えるなど、シャッターを開けていただくにはきっかけも必要で、これからの課題かなと思います。

委員)

ベルタウンの老朽化もそうですが、もうすこし明るく、心躍るような商店街が良いのかなと思います。店主と仲良くなって、店を開けていただいた時に賃料が発生するなどメリットや心動かすような方策があると良いのかなと思います。

市長)

改修の補助はありますが、使う人のための補助金であり、貸す人の補助金ではないので、これから考えていく必要があります。

委員)

駐車場の問題もあると思います。お店の前に車を停めておくと見回りの人にやられることも多いらしいので、ちょっと悪条件かなと聞いております。

市長)

条件的には前よりもずっと良くなって、丸1日停めても400円くらいだと思います。

委員)

利用者の方は店の前まで来たいと思っています。

市長)

そうなりますと、街歩きがしたくなる仕掛けのようなものが必要になりますね。

委員)

まちづくりは本当に難しいということ、もう1つは持ち主の勢力と言いますか高齢化によって「私のところはもういいです」と言われることもあります。市がある程度、引っ張っていくような施策などが必要だと思いますが、落ち込まないように活性化しようとする年代が引っかけて来るのが現実問題にあります。良い案があっても、自分がやろうと思わなければ出来ないのではないかと思います。

委員)

通り本町の話ですが、再開発されましたが、土日は中心市街地より本町の方が、人が歩いているように思います。また残念ながら、通り本町の空き家が増えました。三井家公開の間に、1件シャッターが開いただけで雰囲気が全然違いました。

市が店舗を借り上げて、安価な家賃で貸している例もあり、そこは伝統的建造物保存地区でそういった補助制度があり店舗を利用されている人が結構います。

空き店舗を利用し、市で外観を整えながら、市営住宅扱いと言いますか、そういう形で売ればそこに入る人も出てくるのかなと思います。

委員)

普段住んでないので、間違っていたらすみません。例えば、こども家庭センターや福祉まるごと相談室、コミュニティセンター化など、今、なぜこれを提案しているか理由が分かるように、市民にも分かるようなメッセージが必要ではないかと思います。また、どのセンター・相談室にも、困り果てている人が来られるようなメッセージが出来たらと思います。もう1つ、文化のところですが、文化予算は文化に対する考え方の違いから首長さんで変わるということがよく言われております。松阪の場合は、歴史がたくさんあるので、市民が考えている「文化」が何か、もう少し分かるとうまいかなと思います。市町村によって何を文化としているのか全く違うので、それが分かると違った施策が出来るのかなと思います。

女性支援のところですが、「困難な問題を抱える女性への支援に関する法律」が来年出来るので、本当に困っている人が、自分が行っても良いと思えるようなメッセージがあればと思います。

また企業誘致で、「こども支援」や「子育て支援」として誘致するのも手ではないかと思います。

国立女性会館の館長から三重県は子育てに積極的と聞いております。松阪市にももっと押して欲しいと言われて来ましたのでお伝えしておきます。

委員)

2つありまして、1つ目は市街化調整区域に家を建てるということですが、具体的には難しいのかなと思うので、秘策があれば教えていただきたいということ、2つ目は、三重県で女性議員の会が8年ぶりに開かれ、妻が参加したフォーラムで、同じ選挙で専務と社員が戦ったことが話題になり、徳島県の全国初の女性議長からもお褒めいただきました。

まちづくりをする時に、女性の議員が増えれば良いとは思いますが、4年で変わるため生活の保障がないので、それをサポートする会社が制度を作れば、子育て世代の意見が通りやすくなるのではないかと思います。

市長)

市街化調整区域については、日本全体の人口減少により緩和され、その集落が最盛期の件数まで建てても良いことになりました。私の生まれ故郷である広瀬町は、今は70世帯ですが、最盛期は140世帯ありましたので、あと70世帯は建てても良いこととなります。ただし、地区計画を作成する必要がありますが、地区計画の1番の課題は全員同意が必要となります。法律の緩和から始まった話なので、上手くいけばと思います。

女性議員の話は制度的には分かりますが、どうやってやったら良いかがパツとは思いませんでした。

委員)

不安定な議員の身分を何らかの形で保障することは、働き方改革にも繋がり、地域企業がまちづくりに貢献出来るのではないかと感じました。

市長)

松阪市の市議会議員さんは 28 名中、8 名が女性議員です。

男性ですが社内のさまざまな制度を活用して、サラリーマンをしながら議員活動をされている方が 1 名みえます。

委員)

たしかに女性だけではないとは思いますが、1 つのアイデアとしてどうかと思いました。

会長)

民主主義の原則からいくと育児休業みたいに 4 年たったら、また職業に復帰出来るようでない、保障されていることにはならないのではないかと思います。

委員)

会社によっては政治的活動が出来ないところもあります。

委員)

そもそも副業が出来ないです。

委員)

人生捨てないと議員になれないのはおかしくないのかと思います。

委員)

市街化調整区域のことですが、自然環境や景観の調和に配慮した開発を推進する、という言い方に区分すると良いのかなと思いました。

関連して他の自治体の事例を見ると、埋蔵文化財など遺跡多く、先程の文化の話で、嬉野や松阪城など豊かな文化財資源と言われているので、埋蔵文化財の点も十分に考慮いただけたらと思います。

商店街についてですが、「疲れた」「やりたくない」という方ではなく、本当にやる気のある人を支えるようなことが重要ではないかと思います。「誰でも」と言うのとはちょっと違うように思います。

委員)

今後の市政でお願いが 3 つありまして、森林公園はかなり老朽化しており、気候が良い日に行っ

でも辛気臭いように思います。子育ての話が出ているので、小さいお子さんでも遊べるように施設なども含めてもっと使いやすく、市民の方に親しまれるように見直していただきたいと思います。来場者数は前よりも増えていますが、市民は、緑やこどもを遊ばせる施設が少ないように思います。

もう1点は、高速道路から降りて来た時の看板が統一化していないので美観が損なわれているように感じます。大きさや色など景観整備計画のようにきっちり枠にはめないにしても、見直していただけたらと思います。

3つ目は景観整備をやると、そこに集まって来られる方は、すごく馬力があり、それを活かすのは市政の仕組みだと思います。景観整備計画をもう一度見直して、1つのポイントとして市政に活かすことは歴史と文化という言葉が生きてくるのではないかと思います。

市長)

森林公園は最近手を入れまして、遊具だけでも4,000万円かけて一新、キャンプ施設も充実させました。指定管理者が変わり、新しい指定管理者はベルファームの管理者と同じなので連携して人が呼べるような形に変わって来たのではないかと思います。ベルファームの遊具もきれいになり、たくさんの方が来てくれるようになったので、森林公園もさらにやっていきたいと考えています。

委員)

各サークルさんの横の繋がりが無いということですが、来年度からにはなりますが、徳和のコミュニティセンターを、子育ての人達が集まる事務所的な場をつくれたらということで話を進めております。

また産婦人科が近くにあり、ちょっとした居場所をセンターでやってもらえないかと先生からご相談をいただき、ひと月に2回、6か月以降のおなかが大いの方に来ていただき、あたたかいご飯など提供しています。

その他にも、大きな企業が近くにあり、その食堂で婚活をしてもらえないかという話もいただいております。

コミュニティセンターになったことで、外からもいろんなご提案もいただいているので、事務所的なことが出来ればと考えております。

委員)

婚活についてですが、マリッジプラザをやっています、結構盛況で、全国レベルでやっているのもたよろしく願います。

私事ですが、「まもる」の高齢者について、母が介護になり市役所に行きましたが、親切にケアマネさんなども紹介いただき、手軽に相談に行けて、困っている時に助けってもらえる体制は本当にありがたいなと感じました。

委員)

多くの施策が示されていますが、冒頭で市長がおっしゃっていたスポーツの1年の中で、おもてなしが評判が良かったということ、福祉は対面が大事だとおっしゃってましたが、心身の健康を考えた時に、心の部分にも力を入れていただく方が良いのかなと思います。

委員)

相談窓口は結構あると思いますが、あらゆるジャンルについて、ちょっとしたセミナーや講座で、「講師の出来る人」の人材バンクのようなものを市で作っていただけませんか。誰にお願いしようかという時に他所の公民館に聞いたりしていますが、人材バンクのようなものがあれば活用出来るのではないかと思います。

委員)

提案ですが、8年間の実績を見るとかなりすごいと思うので、やったことをきちんと伝えた方がよいと思います。もう1つは、まるごと相談室など、目玉施策を全国にアピールすることで行政視察の件数も増えるのではないかと思います。

市長)

ありがとうございます。明日から行政の企画が頑張るかと思います。

委員)

これだけのことをやっているのはすごいことだと思います。これを市民の方に広めるのも大事で、私達が見ても「えっ」と思うことがあるので発信の部分で良い方法があればと思います。

市長)

この前のマラソンで、広報は2回以上、地域の回覧板、特に影響あるところは個別でチラシを入れたりしましたが、問い合わせは100件近くありました。難しいのは、人は自分の興味のあるところだけを見たいので、ないところをどう提供出来るかが難しい。それよりも自分が欲しい情報、ファクトをいかに伝えられるかが特に重要だと考えています。人によって見方は異なりますが、「市の情報を何から取るか」アンケートを取ると7割が紙媒体である広報です。またホームページ離れなども進む中で、出し方も重要になってくるのかなと思います。発信の難しさを毎回感じます。

委員)

一般の方はホームページを見たことない方も多く、イベント情報のページがあることを知らないのではないかと思います。

委員)

そもそも行政のホームページを見る人は現実的には少ないと思います。

市長)

発信を考えたいと思います。ありがとうございます。

会長)

他に何かありますか。ないようでしたら今日の会議は終わりたいと思います。
ありがとうございました。

《午後 5 時 00 分終了》